

結びにかえて

この稿を本当に結ぶことは到底できない、というのが現段階での偽らざる感想である。筆者が上で提出したアフリカ経済論の新しい骨組みを現実に適用し、その適切さを検証する作業が全くできていないからである。

しかし、冒頭で記した主流派経済学から投げかけられた問題乗り越えるためには、課題はそれに限られないだろう。ここで思い浮かぶ2つの重要な点を記しておきたい。

ひとつは市場経済そのものの根幹にかかわる制度、すなわち、貨幣の問題である。それは本論で石川の助けを借りて指摘した市場経済の未発達の問題と直接に関わっているだろう。マルクスも含めた多くの経済学者が言うように1対1の物々交換の積み重ねから貨幣の役割が生み出されるのではなく、全ての交換されえるものの価値を一身に表す貨幣の存在こそが商品世界存立の前提である——これは岩井克人によって提出された命題である岩井[1998: 64-5]。この命題がもし正しいのであれば、貨幣という制度こそが市場の前提となるはずである。だが、貧困社会にはすべての商品の王たる貨幣¹¹に服従しない唯一の財がありえる。それは、他者・他地域との交換による入手が期待できない状況下にいる小農おのおのが自らを養うために自然と資源から作り出した、食料など生存のための糧である。単なる物質としての貨幣は人々を養うことはできないから、市場が直ちに他の生存資料を商品として供給できない限り、小農が自ら作り出した生存資料に永遠に取って代わることはできないのである。すなわち、歴史家あるいは方法論的全体主義者にとってはなじみの深い自給自足＝余剰生産＝市場経済の3者の関係が、貨幣の制度的役

¹¹ この表現はモノの交換における（一般的価値形態に対する）等価形態にひそむ「貨幣形態の秘密」についてのマルクスの議論を紹介するなかで岩井が用いているものである（岩井[1998: 45, 56]）。本論で述べたような市場未発達状況下の生存資料だけは、どのようなかたちであっても他のモノの等価形態たりえない。したがって商品の王たる貨幣に服従しないのである。

割を踏まえて読み解かれなければならない。

言い換えればノースにとっての主要な問題だった制度と生産力の問題に加えて、すべての商品の王たる貨幣という制度、生産力、市場経済の相互関係が説明されなければならない。このことは自給自足の広汎な残存を特徴とするアフリカ経済の問題として、そして（筆者の管見の範囲では）主流派経済学が持て余してきた問題として、今後長期にわたってアフリカ経済論の考察の中心とされるべきように思う。ここで述べたことは、石川が指摘したような「市場の未発達」の概念を考究する上でも重要なことであろう（2 節 1 . 参照）。

もうひとつは時間の問題である。筆者が図 2 で示した考察の枠組みは時間軸で刺し貫かれなければならない。われわれの対象は具体的なアフリカであるから、その時間は当然具体的な日付のついた時間である。その日付に依じて個人＝主体と制度環境の相互作用が、マクロ状況や自然・資源とのやはり相互関係の中でどのように展開しているのかが正確に跡付けられ、分析されなければならない。時間の中での動態分析はすべての経済研究者にとってきわめて厄介な問題であるが、とりわけ無名の時間軸での分析を事としてきた主流派の限界はここでこそ打ち破られなければならないだろう。

ともかく前途は遼遠である。それが本研究会での有益な議論を通じて筆者の小さな頭脳で理解した確かなことのひとつである。

[参考文献]

< 日本語文献 >

赤羽裕 [1971] 『低開発経済分析序説』岩波書店。

アグリエッタ、ミシェル（若森章孝・山田鋭夫・大田一廣・海老塚明訳）[2000] 『資本主義のレギュレーション理論：政治経済学の革新』大村書店。（Aglietta, Michel [1976] *Régulation et Crises Du Capitalisme: L'expérience des Etats - Unis*. Calmann - Lévy.）

アグリエッタ、ミシェル、アンドレ・オルレアン（井上泰夫・斉藤日出治訳）[1991] 『貨幣の暴力：金融危機のレギュレーション・アプローチ』法政大学出版局（Aglietta, Michel and André Orléan [1982] *La Violence de La Monnaie*, Universitaires de France.）

- 池野旬 [1989] 『ウカンバニ：東部ケニアの小農経営』アジア経済研究所。
- 池野旬 [1999] 「東アフリカの農村変容と土地制度変革のアクター：タンザニアを中心に」
池野旬編『アフリカ農村像の再検討』アジア経済研究所。
- 石川滋 [1990] 『開発経済学の基本問題』岩波書店。
- 石川滋 [1996] 「開発経済学から開発協力政策へ」石川滋 編『開発協力政策の理論的研究』
アジア経済研究所。
- 岩井克人 [1998] 『貨幣論』（ちくま学芸文庫）筑摩書房。
- 磯谷明德・海老塚明・植村博恭 [1998] 『社会経済システムの制度分析』名古屋大学出版
会。
- 井堀利宏 [1997] 『入門経済学』新世社。
- 絵所秀紀 [1997] 『開発の政治経済学』日本評論社。
- 絵所秀紀 [1998] 「経済開発理論の展開と国際機関」東京大学社会科学研究所編『開発主義』
20 世紀システム 4 東京大学出版会。
- 大塚久雄 [1995] 『共同体の基礎理論』岩波書店。
- 大野健一 [1996] 「市場経済の形成過程と経営学パラダイム：開発経済学の新視角を求め
て」石川滋編『開発協力政策の理論的研究』アジア経済研究所。
- 金子勝 [1997] 『市場と制度の政治経済学』東京大学出版会。
- 黒崎卓 [2001] 『開発のミクロ経済学』岩波書店。
- 盛山和夫 [1995] 『制度論の構図』創文社。
- セン、アマルティア（黒崎卓・山崎幸治訳）[2000] 『貧困と飢饉』岩波書店（Sen, Amartya
[1981] *Poverty and Famines: An Essay on Entitlement and Development*. Oxford: Oxford
University Press. ）。
- 速水佑次郎 [2001] 『新版開発経済学：諸国民の貧困と富』創文社。
- 原洋之介 [1985] 『クリフォード・ギアツの経済学：アジア研究と経済理論の間で』リプロ
ボート。
- バーダン、プラナブ、クリストファー・ウドゥリ（福井清一・不破信彦・松下敬一郎訳）[2001]
『開発のミクロ経済学』東洋経済新聞社（Bardhan, Pranab and Christopher Udry [1999]
Development Microeconomics Oxford: Oxford University Press. ）。
- 松田凡 [1995] 「経済：形式 - 実在論争とモラル・エコノミー論争」米山俊直編『現代人類
学を学ぶ人のために』世界思想社。
- 馬渡尚憲 [1990] 『経済学のメソドロジー：スミスからフリードマンまで』日本評論社。
- 峯陽一 [2000] 『現代アフリカと開発経済学』日本評論社。
- 吉田昌夫 [1999] 「タンザニア，北パレ平地村の水利組織：東アフリカにおける農村共同
体をめぐる一試論」池野旬編『アフリカ農村像の再検討』アジア経済研究所。

< 外国語文献 >

- Bates, Robert. H. ed. [1988] *Toward a Political Economy of Development* Berkeley: University
of California Press.

- Frohlich, Norman and Joe. A. Oppenheimer [1978] *Modern Political Economy*. Prentice-Hall, Inc.
- Harriss , John , Janet Hunter and Colin M. Lewis eds. [1995] *The New Institutional Economics and Third World Development*, London: Routledge.
- Hicks, John. R. [1969] *A Theory of Economic History*, Oxford: Clarendon Press. (新保博訳『経済史の理論』日本経済新聞社 1970)
- Hyden, Goran[1983] *No Shortcuts to Progress: African Development Management in Perspective* . Berkeley and Los Angeles: University of California Press.
- Machlup, Fritz [1978] *Methodology of Economics and Social Sciences*, London: Academic Press Inc.
- North, Douglas C. [1981] *Structure and Change in Economic History*, W. W. Norton. (中島正人訳『文明史の経済学』春秋社 1989)
- North , Douglas C. and Richard P. Thomas [1973] *The Rise of The Western World*, Cambridge: Cambridge University Press. (ノース・トマス (速水融・穂本洋哉訳) 『西欧世界の勃興』ミネルヴァ書房 1980)
- Olson, Mancur [1965] *The Logic of Collective Action: Public Goods and the Theory of Groups*, Cambridge and London: Harvard University Press (依田博・森脇俊雅訳『集合行為論』ミネルヴァ書房 1983)
- Popkin, Samuel L.[1979] *The Rational Peasant: The Political Economy of Rural Society in Vietnam*. Berkeley: University of California Press.
- Popkin, Samuel L.[1988] "Public Choice and Peasant Organization" in R. H. Bates, ed., *Toward a Political Economy of Development*. Berkeley: University of California Press.
- Schultz, Theodore W. [1964] *Transforming Traditional Agriculture*, New Heaven: Yale University Press. (逸見謙三訳『農業近代化の理論』東京大学出版会 1969)
- Scott, James. [1976] , *The Moral Economy of the Peasant: Rebellion and Subsistence in Southeast Asia*. New Haven: Yale University.